

“資源循環・低炭素型都市づくりの 学際研究”資料編その1： 研究会および研究交流会

小 出 秀 雄¹

1. 本共同研究プロジェクトの紹介

本資料は、文部科学省の平成20年度「戦略的大学連携支援事業」²である「国公立大コンソーシアム・福岡」³の平成21年度研究助成事業「資源循環・低炭素型都市づくりの学際研究：福岡市と釜山広域市を中心に」⁴が行った研究会（6回）、研究交流会（1回）、ヒアリング・施設見学（多数）などの実績を整理して、記録に残すことを目的としている。本稿はまず、資料編の「その1」として、研究会と研究交流会に関する情報を取り扱う。

本研究助成事業の助成元であるコンソーシアム・福岡とは、**図1**に示すように、福岡市臨海部に位置する福岡工業大学（代表校）⁵、九州大学⁶、福岡女子大学⁷、西南学院大学⁸の4大学が、大学院修士レベルで、環境・エネルギー問題に取り組む大学連

1 西南学院大学経済学部経済学科教授。本研究資料を作成するにあたって、西南学院大学特別研究C（2009-2010年度）「リサイクル義務と生産性の経済学的解明」、[国公立大コンソーシアム・福岡]平成22年度研究助成事業（研究会枠）「九州と東アジアの都市をつなぐ資源循環の学際的検討フォーラム」（研究会代表者：小出秀雄）〈<http://junkanforum.seesaa.net/>〉、および平成22年度科学研究費補助金・基盤研究(C)「最終処分場の社会的枯渇が廃棄物処理システムの環境・経済的効率性に及ぼす影響」（研究代表者：中山裕文）による支援を活用した。この場を借りて感謝申し上げます。

2 http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/20/08/08081305.htm

3 <http://www.consortium-fukuoka.jp/>

4 <http://jointfukuoka.seesaa.net/>

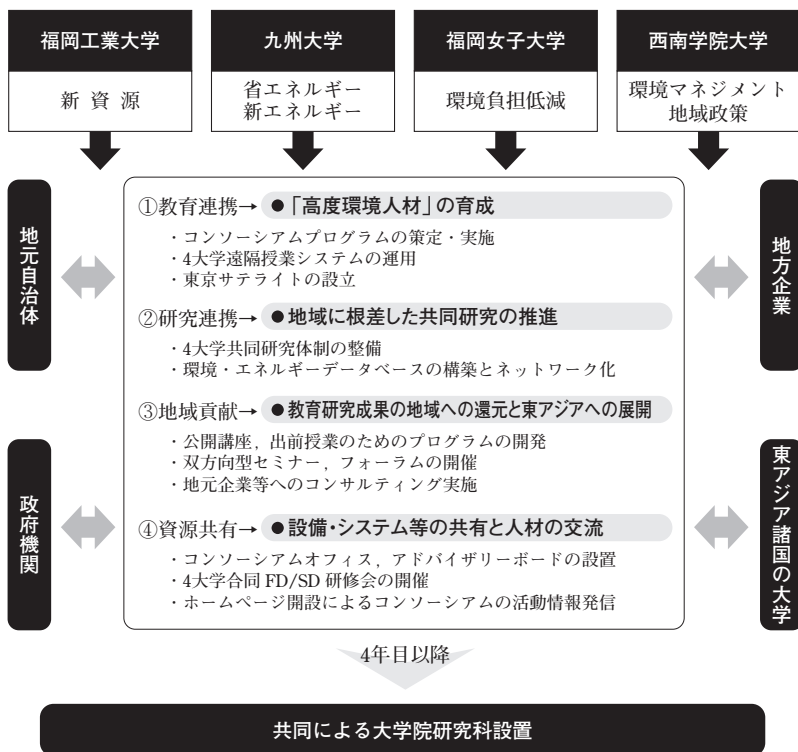
5 <http://www.fit.ac.jp/>

6 <http://www.kyushu-u.ac.jp/>

7 <http://www.fwu.ac.jp/>

8 <http://www.seinan-gu.ac.jp/>

図1 コンソーシアム・福岡のイメージ



出所：<http://www.consortium-fukuoka.jp/about/outline.php>

携組織である。この取り組みは、アジア地域を展望しつつ、環境・エネルギー問題の解決や地域経済の振興に主体的に取り組むこと、そこで指導的な役割を果たすことのできる人材を育成すること、これらの課題についての共同研究を推進すること、そしてそれを地域へ還元するための「知の拠点」を創造することの4つを、具体的な連携目標（地域貢献，教育連携，研究連携，ガバナンス（資源共有））として掲げている。

表1は、平成21年度に実施されたコンソーシアム・福岡の研究助成事業である。その内訳は、公募および審査の結果採択された共同研究プロジェクトが4つ、研究会が

2つ、そしてコンソーシアムを中心に、文系・理系の多方面の研究ネットワークを生かした「電気自動車研究会」（5つのグループにより構成）である。

筆者を研究代表者とする「資源循環・低炭素型都市づくりの学際研究：福岡市と釜山広域市を中心に」は、福岡県福岡市とその姉妹都市である韓国・釜山広域市における資源循環型および低炭素型の「都市づくり」の現状と課題を、経済・法・技術・都市計画などの異なる専門の見地から整理、比較することによって、地理的に近接するアジアの国際都市間で今後、個別に展開あるいは連携していくべき諸方策を提案する共同研究プロジェクトである。

表1 平成21年度の研究助成事業

研究プロジェクト名	研究代表者 (所属)	研究分担者の所属	採択金額 (万円)
資源循環・低炭素型都市づくりの学際研究：福岡市と釜山広域市を中心に	小 出 秀 雄 (西南学院大学)	西南学院大学, 福岡アジア都市研究所, 福岡工業大学, 九州大学, 環境テクノス	210
博多湾東部海域における貧酸素水塊の発生・消滅過程にかかわる調査研究	山 田 真知子 (福岡女子大学)	九州大学, 福岡女子大学	200
光エネルギーによる貴金属の回収とそれを用いた光機能セラミックスの製造	木 田 徹 也 (九州大学)	九州大学, 福岡工業大学, 釜山大学校	200
環境浄化・センシングのための無機ナノシート液晶・高分子複合ゲルの開発	宮 元 展 義 (福岡工業大学)	九州大学	200
〔研究会〕エネルギー資源の多様化に対応したエネルギーベストミックスの検討	堀 史 郎 (九州大学)	九州大学, 福岡女子大学, 日本エネルギー経済研究所, ほか随時	95
〔研究会〕グローバル化する環境・エネルギー問題の解決を目指した国際レゾーム論の構築	岩 間 徹 (西南学院大学)	人事院, 福岡工業大学, 早稲田大学, 明治学院大学, 学習院大学, 国立環境研究所, 経済産業省, 外務省, 環境省, 日本経済団体連合会	95
〔コンソーシアム〕電気自動車研究会 全体統括者：小寺山亘（九州大学） 全体コーディネーター： 廣田正典（福岡工業大学）		グループ1：電気自動車と経済 グループ2：社会インフラストラクチャーの構築 グループ3：電気自動車の性能向上とコスト削減 グループ4：電気自動車を受け入れるエネルギー社会体系 グループ5：市民との対話	

出所：http://www.consortium-fukuoka.jp/joint_research/research_project.php,
<http://www.consortium-fukuoka.jp/about/newsletter.php> より筆者作成

また、両市以外にも、国際都市でありかつ「環境モデル都市」¹⁰でもある、福岡県北九州市や京都府京都市の実態を調査し、比較の対象とすることによって、より幅広く意義深い政策的含意を得ることを目指す。さらには、福岡市にほど近い春日市や久留米市での取り組みを学び、環境対策において近隣自治体同士で連携することの意義について検討する。

ちなみに、福岡市と北九州市との「福北連携」とよばれる取り組みが、1999年11月にそれぞれの前市長が合意した「福北連携の理念」により進められてきたが、2009年7月にそれぞれ新市長によって「新・福北連携の理念」¹¹が締結された。福岡市と北九州市、福岡市と釜山広域市の関係は、図2に示す通りである。

図2 福岡市・北九州市・釜山広域市の関係



出所：http://maps.google.co.jp/maps および各種統計より筆者作成

10 <http://www.kantei.go.jp/jp/singi/tiiki/kankyo/index.html>

11 <http://www.city.fukuoka.lg.jp/soki/kikaku/shisei/046.html>

本共同研究プロジェクトは、以下の7名のメンバーによって構成されている。いずれも、氏名、所属・職位、学位、専門分野の順に記してある。

- [1] 小出秀雄（コイデ・ヒデオ）：西南学院大学経済学部¹²経済学科・教授，博士（経済学），環境経済学，環境政策
- [2] 勢一智子（セイイチ・トモコ）：西南学院大学法学部¹³法律学科・教授，修士（法学），行政法，環境法
- [3] 田村一軌（タムラ・カズキ）：財団法人福岡アジア都市研究所¹⁴・研究主査，博士（都市・地域計画），都市地域計画，ネットワーク解析，施設立地分析
- [4] 鄭雨宗（チョン・ウジョン）：福岡工業大学社会環境学部¹⁵社会環境学科・准教授，博士（商学），環境経済学，地球温暖化政策
- [5] 中山裕文（ナカヤマ・ヒロフミ）：九州大学工学研究院¹⁶・准教授，博士（工学），環境システム工学，廃棄物工学
- [6] 松田晋太郎（マツダ・シンタロウ）：環境テクノス株式会社¹⁷企画部・主任（組織変更により平成22年度から企画開発部・主任研究員），博士（工学），廃棄物管理，バイオマス利活用
- [7] 諸賀加奈（モロガ・カナ）：九州大学炭素資源国際教育研究センター¹⁸・学術研究員，修士（経済学），環境経済学，経済成長論

次に、**図3**と**図4**を示しつつ、本共同研究プロジェクトの特徴を列挙する。

- (1) 対外的なヒアリングや見学を主体とした、いわば「イベント型」のプロジェクト。
- (2) コンソーシアム・福岡内の3大学に加えて、研究機関，民間企業の研究者も参加。
- (3) 経済学〔小出・鄭・諸賀〕，法学〔勢一〕，廃棄物工学〔中山・松田〕，都市計画〔田村〕といった，文系・理系の複数の分野により構成。
- (4) 日本人だけでなく，日中韓の事情に詳しい韓国人研究者〔鄭〕も参加。

12 <http://www.seinan-gu.ac.jp/econ/>

13 <http://www.seinan-gu.ac.jp/jura/home04/top01.htm>

14 <http://www.urc.or.jp/>

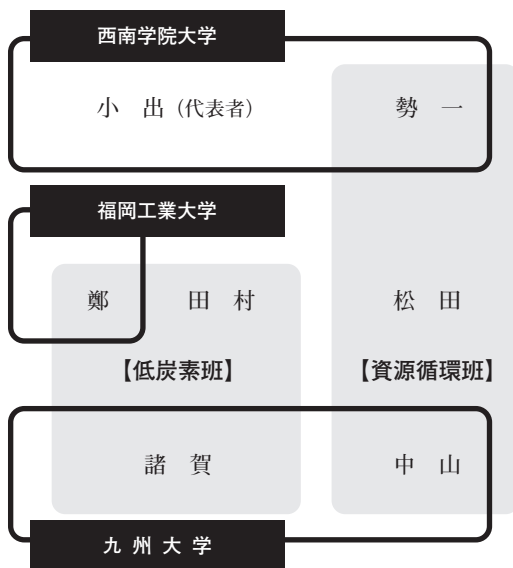
15 <http://www.fit.ac.jp/eco/>

16 <http://www.eng.kyushu-u.ac.jp/>

17 <http://www.kan-tec.co.jp/>

18 <http://cr.cm.kyushu-u.ac.jp/>

図3 本共同研究プロジェクトの実施体制



出所：<http://www.consortium-fukuoka.jp/about/newsletter.php>

図4 国際シンポジウムにおける紹介スライド¹⁹



19 Hideo Koide, “An Economic Approach and Local Policy Implementation to Internalize Externality in Resource Circulation City,” The 3rd International Symposium on the East Asian Environmental Problems, Nishijin Plaza, Kyushu University, December 4, 2009.

- (5) アジア地域をフィールドにもつ研究者〔田村・鄭・中山・松田・諸賀〕が参加。
- (6) 研究成果の取りまとめは、低炭素班〔田村・鄭・諸賀〕と資源循環班〔勢一・中山・松田〕でそれぞれ企画し、全員で執筆。

2. コンソーシアム共同研究会

本共同研究プロジェクトは、後述する「資源循環に関する研究交流会」を除いて、計6回の定例研究会を開催した。会場はその都度考え、第1回と第2回、第6回は西南学院大学（コミュニケーションプラザとコミュニティーセンター）、第3回と第4回は九州大学（伊都キャンパスと西新プラザ）、第5回は福岡市赤煉瓦文化館で、それぞれ研究会を行った。

研究会の開催通知は毎回、筆者が参加している環境経済・政策学会²⁰のメーリングリストや西南学院大学の教職員・学生専用のポータルサイト²¹、筆者が作成している本共同研究の活動記録ブログ²²を通じて、広く発信された。さらに、桂木健次氏（「国公立大コンソーシアム・福岡」初代取組責任者、元福岡工業大学教授、富山大学名誉教授）のご好意により、上記メーリングリストへの発信内容がたびたび「ツイッター」²³に転送された。

研究会では、正規のメンバーに加えて、西南学院大学法学部の岩間徹氏や、九州大学と西南学院大学の大学院生も出席した。特に第5回に関しては、岩間氏によるタイムリーな話題の講演を企画したことにより、新たに3名の出席者を得た。

以下、各回のプログラムの内容と写真を掲載する。

2-1. 第1回コンソーシアム共同研究会

日 時：2009年7月4日（土） 15時～18時

会 場：西南学院大学コミュニケーションプラザ²⁴ 1階 第3会議室
（福岡市早良区西新6-2-92）

20 <http://www.soc.nii.ac.jp/seeps/index.html>

21 <https://seis-h.seinan-gu.ac.jp/ActiveCampus/index.html>

22 <http://jointfukuoka.seesaa.net/>

23 <http://twitter.com/>

24 <http://www.seinan-gu.ac.jp/>

出席者：小出，勢一，田村，鄭，中山，松田，諸賀，
岩間徹氏（西南学院大学法学部教授）



写真1 小出紹介



写真2 松田紹介

①自己紹介を兼ねたプレゼンテーション

[1] 小出：韓国の最終処分場（スライド，写真1）

[2] 中山：資源循環システムビジョンについて（配布資料）

[3] 松田：北九州市中央卸売市場におけるバイオマス資源利活用に関する調査・検討（スライド，写真2）

[4] 他のメンバーの自己紹介，および意見交換

②本研究（会）の方針づくり ③現地調査（ヒアリング・視察）の検討 ④その他

2-2. 第2回コンソーシアム共同研究会

日時：2009年10月3日（土） 15時～18時

会場：西南学院大学コミュニケーションプラザ 1階 第3会議室
（福岡市早良区西新6-2-92）

出席者：小出，勢一，田村，鄭，中山，松田，諸賀，岩間徹氏，
澤部咲余氏（九州大学大学院工学府都市環境システム工学専攻²⁵）

①研究報告

[1] 小出：本共同研究の2009年7～9月の活動概要



写真3 諸賀報告



写真4 中山報告

[2] 諸賀：中国の自動車産業と環境ビジネスの現状に関する調査研究（写真3）

[3] 中山：低炭素型社会構築のための都市ごみ焼却残渣の循環資源化技術²⁶（写真4）

②今後の方針固め ③その他

2-3. 第3回コンソーシアム共同研究会

日時：2009年11月7日（土） 15時～18時30分

会場：九州大学循環型社会システム工学研究センター（CE40）²⁷ 2階
アジア環境情報室（福岡市西区元岡744）

出席者：小出，勢一，田村，諸賀，澤部咲余氏，
范爽氏（西南学院大学大学院²⁸経済学研究科），
姜徳男氏（西南学院大学大学院経済学研究科）

①研究報告：

[1] 小出：釜山・大邱のごみ処理施設および再資源化施設

[2] 田村：福岡市における低炭素型都市づくりの課題²⁹（写真5）

[3] 勢一：環境法における「循環型社会」と「低炭素社会」（写真6）

②今後の方針固め ③その他

26 中山報告は共著論文「低炭素型社会構築のための都市ごみ焼却残渣の循環資源化技術」として、『都市政策研究』第8号（2009年9月発行）に掲載された。

27 <http://www.ries.kyushu-u.ac.jp/>

28 <http://www.seinan-gu.ac.jp/gra/index.html>

29 田村報告は単著論文「福岡市における低炭素型社会の実現に向けた現状と課題」として、『都市政策研究』第9号（2010年3月発行）に掲載された。

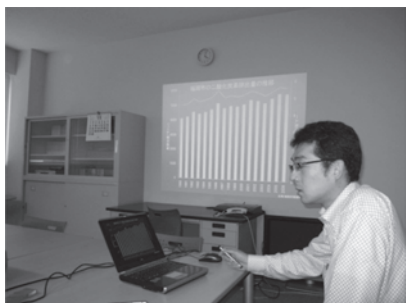


写真5 田村報告



写真6 勢一報告

2-4. 第4回コンソーシアム共同研究会

日 時：2009年12月19日(土) 15時～18時30分

会 場：九州大学西新プラザ³⁰ 2階 中会議室（福岡市早良区西新2-16-23）

出席者：小出，勢一，田村，鄭，中山，松田，姜徳男氏



写真7 鄭報告



写真8 松田報告

①研究報告：

[1] 鄭：国境税調整と国際環境影響効果（写真7）

[2] 松田：循環型・低炭素型都市づくりのためのバイオマス利活用と課題（写真8）

②「低炭素」論文（&「資源循環」論文）執筆の打ち合わせ ③その他

2-5. 第5回コンソーシアム共同研究会

日 時：2010年1月30日(土) 15時～18時30分

会 場：福岡市赤煉瓦文化館（福岡市文学館）³¹ 2階 会議室1
（福岡市中央区天神1-15-30）

出席者：小出、勢一、田村、鄭、松田、諸賀、岩間徹氏（講演者）、
高良研一氏（西南学院大学常勤理事）、小川滋氏（「国公立大コンソーシ
アム・福岡」取組責任者、福岡工業大学社会環境学部長）、申東愛氏（北
九州市立大学法学部³²）



写真9 打ち合わせ



写真10 岩間講演

- ① 「低炭素」論文、「資源循環」論文執筆の打ち合わせ（15：00～16：15，写真9）
- ② 岩間徹氏の招待講演：「コペンハーゲン温暖化交渉」（16：20～18：30，写真10）

2-6. 第6回（最終）コンソーシアム共同研究会

日 時：2010年3月5日(金) 15時～18時

会 場：西南コミュニティーセンター³³ 1階 多目的室1
（福岡市早良区西新6-2-92 西南学院大学内）

出席者：小出、田村、鄭、中山、松田、諸賀、姜徳男氏

31 <http://toshokan.city.fukuoka.lg.jp/docs/bungakukan/html/bungakukan.html>

32 <http://www.kitakyu-u.ac.jp/law/>

33 <http://www.seinan-gu.ac.jp/syakai/chiiki/shisetu.html#commu>



写真11 議論中(1)



写真12 議論中(2)

- ①「資源循環に関する研究会」(2/22)の成果
- ②本共同研究プロジェクトの成果と取りまとめ (写真11・写真12)
- ③「低炭素」論文執筆の進捗状況 ④その他

3. 各研究報告の概要

以下、各研究報告の概要を表す見出しと、スライド (ppt (x) または pdf) の一部を掲載する。なお、いくつかのスライドのファイルについては、報告者の承諾を得て、活動記録ブログ上で一般公開している。

3-1. 第1回研究会 (7/4)

自己紹介兼プレゼン：小出秀雄「韓国の最終処分場」

- 1. 山清 (サンチョン) 郡農村廃棄物総合処理施設 (2005/10/22)
- 2. 全州 (チョンジュ) 市不適正処分場整備 (同上, 図5)
- 3. 全州広域圏廃棄物埋立地寿命延長事業 (同上)
- 4. ソウル・蘭芝島 (ナンジド) 安定化事業 (2007/9/7)
- 5. 仁川 (インチョン) 首都圏処分場 (同上)
- 6. 蘭芝島安定化事業の内容 (図6)



図5 小出スライド(1)

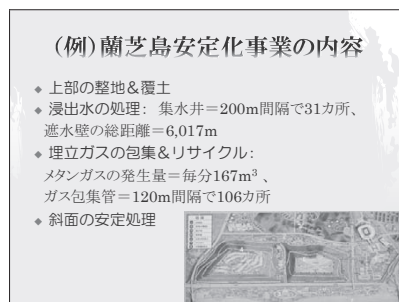


図6 小出スライド(2)

3-2. 第2回研究会 (10/3)

第1報告：小出秀雄「本共同研究の2009年7～9月の活動概要」

1. 共同研究開始以降の会合実績 (2009/7/4～9/15)
2. 活動詳細：写真，見学コース (図7・図8)
3. ヒアリング・見学の候補リスト
4. 本日以降，年末までのスケジュール



図7 小出スライド(3)



図8 小出スライド(4)

第2報告：諸賀加奈「中国の自動車産業と環境ビジネスの現状に関する調査研究」

1. 中国自動車産業の現状と将来性：第3回日中(中日)自動車産業研究交流会 (図9)
2. 中国大連市における環境ビジネスの現状調査：JETRO，大連理工大学，環境テクノス(株)大連事務所 (図10)

3. 課題, まとめ



図9 諸賀スライド(1)

大連市での環境ビジネスの現状

- ◎ 環境汚染は着実に改善されているようだが、まだ多くの企業では適切な環境対策を実施していないという現状がある。
- ◎ 九州の環境ビジネスモデル地域として大連市では環境交流・ビジネスの拡大などが図られている。
- ◎ 大連市より上海市・北京市のほうが環境ビジネスが発展。
- ◎ 大連市は日系企業を参入させるよりも、まず市民の意識を高めるほうに関心がある。

⇒現在、日系企業にとって環境ビジネスは厳しい状況にある。

図10 諸賀スライド(2)

第3報告：中山裕文「低炭素型社会構築のための都市ごみ焼却残渣の循環資源化技術」

1. 都市ごみ（一般廃棄物）処理の現状
2. 廃棄物処理にいくらお金がかかっているか？
3. 焼却残渣のセメント原料化（図11）
4. 従来型システム（埋立処分）と RL（Recyclable Landfill）システム（セメント原料化）の比較（図12）
5. まとめ

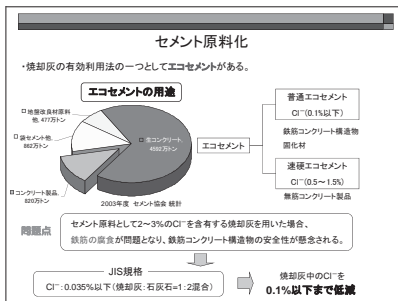


図11 中山スライド(1)

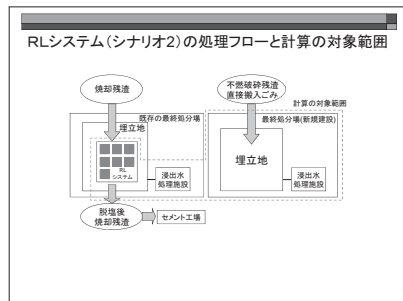


図12 中山スライド(2)

3-3. 第3回研究会 (11/7)

第1報告：小出秀雄「釜山・大邱のごみ処理施設および再資源化施設」

1. 釜山広域市生谷埋立場 (2009/9/7, 10/15)
2. 釜山広域市飲食物資源化(発電)事業所(同上)
3. ごみ焼却施設：釜山環境公団多大事業所 (2009/9/7, 図13)
4. 釜山広域市資源再活用センター (2009/10/15)
5. プラスティック熱分解施設：(株)SS油化(同上)
6. 埋立跡地利用：大邱樹木園(2009/10/16)
7. エアドーム埋立地・ガス化溶融炉：達城2次産業団地(同上, 図14)
8. 大邱広域市芳川里埋立地(同上)



図13 小出スライド(5)

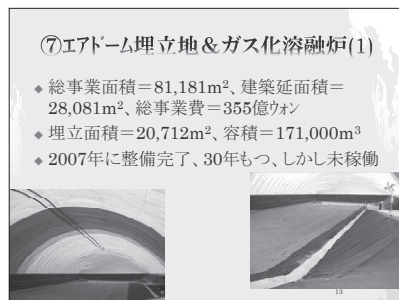


図14 小出スライド(6)

第2報告：田村一軌「福岡市における低炭素型都市づくりの課題」

1. 福岡市における二酸化炭素排出の状況：日本，福岡市，政令指定都市間の比較 (図15)
2. 二酸化炭素排出削減の取り組み：地球温暖化対策地域推進計画，福岡市都心部機能更新誘導方策，福岡市建築物環境配慮制度 (図16)
3. 福岡市における低炭素社会実現への課題：運輸部門，民生部門

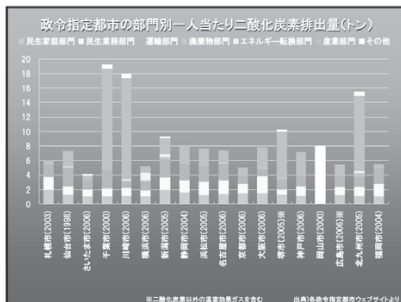


図15 田村スライド(1)

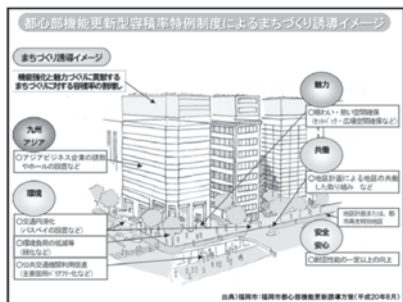


図16 田村スライド(2)

第3 報告：勢一智子「環境法における「循環型社会」と「低炭素社会」

(レジュメと参考資料)

1. 環境法の体系：法体系・概観，基本理念，基本原則
2. 循環型社会：環境法の中での位置づけ，法政策上の特色，福岡市の取り組み
3. 低炭素社会：同上
4. 循環型社会と低炭素社会の統合？：
上位目標としての「持続可能な社会」，
政策指針における位置づけ，課題

3-4. 第4 回研究会 (12/19)

第1 報告：鄭雨宗「国境税調整と国際環境
影響効果」

1. 世界貿易拡大と地球環境問題
2. EU 提案型戦略的貿易措置と京都議
定書の補完性：分析モデル (図17)
3. 国境税調整がもたらす国際環境影響
効果：3つのシナリオ (図18)
4. 戦略的貿易措置の限界性

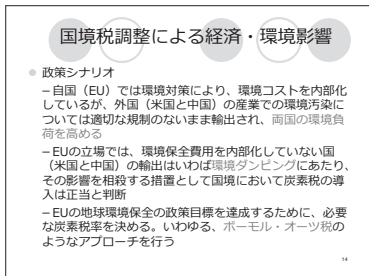


図17 鄭スライド(1)

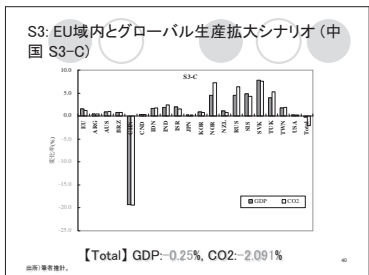


図18 鄭スライド(2)

第2報告：松田晋太郎「循環型・低炭素型都市づくりのためのバイオマス利活用と課題」

1. エコプロダクツ2009の写真
2. バイオマスの種類
3. バイオマス利活用のポイント (図19)
4. バイオプラ=バイオマス由来のプラスチックの例
5. ポリ乳酸は循環利用に適するバイオプラ (図20)

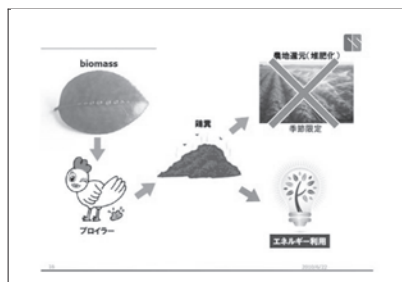


図19 松田スライド(1)

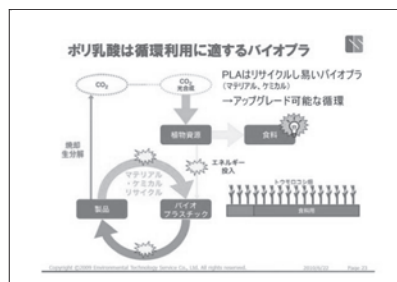


図20 松田スライド(2)

3-5. 第5回研究会 (1/30)

招待講演：岩間徹「コペンハーゲン温暖化交渉」

1. COP15について
2. 現地写真 (図21)
3. 用語の意味と事実
4. 地球温暖化の影響
5. 地球温暖化問題の特徴
6. 国際的取り決め
7. ポスト京都議定書の枠組みづくり
8. コペンハーゲン合意 (図22)
9. コペンハーゲン会議の評価
10. 鳩山政権 (当時) の取り組み



図21 岩間スライド(1)

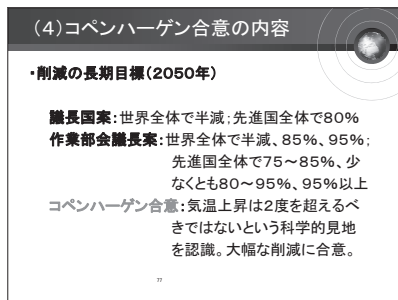


図22 岩間スライド(2)

4. 資源循環に関する研究交流会

本共同研究プロジェクトは2009年11月初旬の時点で、国内および国境を越えた資源循環の実証分析に携わっている若手の研究者を招いた、定例研究会の「拡大版」の企画案をほぼ固めていた。この研究交流会の開催については、通常の研究会を行うときに利用する媒体に加えて、ヒアリングや見学でたびたびお世話になっている福岡市環境局³⁴の担当者や、筆者が2005年度に受講し修了した「九州環境技術創造道場」³⁵の知人を通じて、自治体や工学、実務の関係者にも広く参加を呼びかけた。

その成果もあってか、開催当日は、予想を上回る32名もの出席者に恵まれた。また、写真13と写真14でも明らかのように、幸い天候にも恵まれた。表2は、会場の受付で



写真13 会場の外観



写真14 案内掲示

34 <http://kankyo.city.fukuoka.lg.jp/>

35 <http://www.npo-eco.org/>

表2 研究交流会の出席者リスト

	氏名	所属
1	小出 秀雄	西南学院大学経済学部
2	勢一 智子	西南学院大学法学部
3	范 爽	西南学院大学大学院経済学研究科（院生）
4	姜 徳男	西南学院大学大学院経済学研究科（院生）
5	鄭 雨宗	福岡工業大学社会環境学部
6	古賀 照久	福岡工業大学コンソーシアムオフィス
7	中山 裕文	九州大学工学研究院
8	諸賀 加奈	九州大学炭素資源国際教育研究センター
9	渡邊 智明	九州大学法学研究院
10	大野 富生	九州大学コンソーシアムオフィス
11	澤部 咲余	九州大学大学院工学府（院生）
12	濱本 哲郎	福岡市保健環境研究所
13	徳田 一憲	財団法人九州経済調査協会
14	安田 朋起	朝日新聞福岡本部報道センター
15	申 東愛	北九州市立大学法学部
16	盧 現軍	北九州市立大学大学院国際環境工学研究科（院生）
17	伊藤 雅士郎	北九州市立大学法学部政策科学科（学部生）
18	西村 すず代	北九州市立大学法学部政策科学科（学部生）
19	井上 雅俊	北九州市立大学法学部政策科学科（学部生）
20	高 楊	北九州市立大学（おそらく学部生）
21	松田 晋太郎	環境テクノス株式会社
22	外川 健一	熊本大学法学部
23	阿部 新	山口大学教育学部
24	鶴田 順	海上保安大学校
25	山下 英俊	一橋大学大学院経済学研究科
26	平岩 幸弘	一橋大学大学院経済学研究科
27	陳 雯	一橋大学大学院経済学研究科（院生）
28	馬 静	一橋大学大学院経済学研究科（院生）
29	久留島 守広	東洋大学国際地域学部
30	鄭 城尤	アジア経済研究所
31	村上(鈴木)理映	国立環境研究所
32	佐竹 正夫	東北大学大学院環境科学研究科

記入された、出席者の氏名と所属である。なお、西南学院大学を筆頭に、コンソーシアム・福岡に近い所属の順に整理してある。

通常の学会でのセッション報告では、テーマ別の細分化に限度があることから、テーマとまったく関係のない報告が混在していることがよくある。この交流会では、資源循環というおおまかなテーマのもとで、事前に主催者と報告者との間で、あるいは他の報告者も交えて、誰がどういうことを話せば適切であるかについて相談した。その上で、最終的なテーマの選定は本人に委ね、主催者はそれをもとに3つの小テーマを作り、各報告を適宜配置した。

当日、報告が進むにつれて、それぞれの内容の多様性と補完性が明らかになっていった。各種使用済み製品の流通やりサイクルを規制する法制度の各国間比較、現場での豊富な取材経験を踏まえた今後の大胆な展望、不明な点が多い使用済みパソコンの複雑な経路を推計した労作、産廃税が本当に減量効果をもっていたのかを検証する計量分析などが披露された。

さらに、話す側も聴く側も、文系も理系も所属の別も関係なく、報告内容をめぐる議論に積極的に参加し、まさに「交流会」の名に相応しい場となった。その後もしばらく反響があり、関係者との間で電子メールによる質疑応答や事実確認が続くなど、お互いの知的好奇心をクールダウンするのに時間を要した。

もちろん、この研究交流会は、主催者である本共同研究プロジェクトにとっても貴重な機会となった。今後はさらに人的なネットワークを広げ、この文理融合型の研究拠点が福岡・九州という単なる一地方に留まるものではなく、全国およびアジア地域に向かって、外へ外へと展開していくことを望む所存である。

以下、研究交流会のプログラムと、各報告の写真、概要、スライドを掲載する。

日 時：2010年2月22日(月) 12:30~18:10

会 場：西南コミュニティーセンター 2階 会議室

(福岡市早良区西新6-2-92 西南学院大学内)

総司会：勢一智子 運営主任：諸賀加奈 出席者：32名

1. 開会の挨拶：小出秀雄
2. 研究報告（準備や質疑応答を含めて各報告30分）

第1テーマ：九州・韓国（12：35～14：15） 座長：勢一智子

[1] 徳田一憲（九州経済調査協会³⁶調査研究部研究主査）「九州各県・企業の低炭素社会に向けた取組：資源循環分野を中心に」（写真15）

1. 九州地域における環境産業等の状況
2. 3つのエコタウンを中心とした資源循環の状況
3. 太陽光発電システムのリサイクルの可能性について（図23）
4. “環境トップランナー九州”に向けた取組



写真15 徳田報告

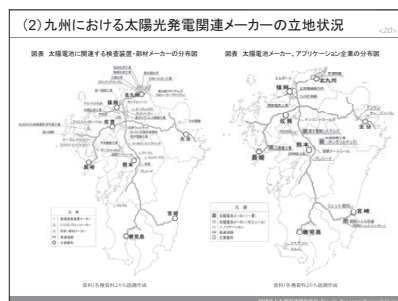


図23 徳田スライド

[2] 小出秀雄・鄭雨宗「福岡・釜山における資源循環対策と連携の可能性」（写真16）

1. 福岡市と釜山広域市のごみ処理・再資源化対策の現状（図24）
2. 両市のごみ処理・再資源化施設の紹介
3. 「福岡・釜山超広域経済圏」構想
4. ごみ処理・再資源化対策の連携の可能性



写真16 小出・鄭報告

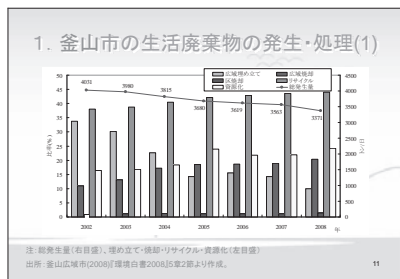


図24 小出・鄭スライド

[3] 鄭城尤 (チョン・ソンウ, アジア経済研究所³⁷・日本学術振興会³⁸外国人特別研究員)「韓国における廃棄物貿易規制の現状と課題：有害廃棄物と中古家電を中心に」(写真17)

1. 有害廃棄物の輸出入管理と汚染の防止

1-1. 「国移法」による管理：輸出入「許可」制度

1-2. 事例1：中国からのシップバック

1-3. 事例2：日本からの石炭灰輸入

2. 中古家電の輸出入管理と国際リユースの拡大

2-1. 「廃管法」による管理：輸出入「申告」制度 (図25)

2-2. 「資循法」による管理：中古パソコン CRT モニタを中心に

3. おわりに

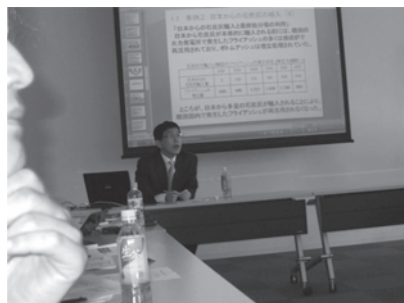


写真17 鄭報告

2.1 「廃管法」による管理：輸出入申告制度 (1)

2008年8月から25種類の廃棄物を対象に輸出入申告制度が導入。

規定上、中古品としての使用済み電気・電子機器と許可対象廃棄物の使用済み電気・電子機器を除いたものが、申告制度の対象。

申告対象廃棄物 (25種類)				
1. 廃合成高分子化合物	2. 汚泥類	3. 鉱灰類	4. 粉塵	5. 廃耐火物及び陶磁器破片
6. 焼却灰	7. 安定化及び固形化処理物	8. 廃触媒	9. 廃吸着剤及び廃吸収剤	10. 廃ペイント及びラッカー
11. 廃油	12. 廃石膏及び廃石灰類	13. 燃焼残財物	14. 廃石材類	15. 廃タイヤ
16. 廃食用油	17. 動植物性残財物	18. 廃電気電子部品類	19. もみ殻及び米糠	20. 廃木材類
21. 廃土砂類	22. 廃錆物砂及び廃砂	23. 廃繊維	24. 廃金属類	25. 廃ガラス

図25 鄭スライド

37 <http://www.ide.go.jp/Japanese/>

38 <http://www.jsps.go.jp/>

第2テーマ：リサイクル・貿易（14：25～16：35） 座長：中山裕文

[4] 陳ブン（一橋大学大学院経済学研究科³⁹）「日本の使用済みパソコン再資源化政策の検証：マテリアル・フロー分析を用いて」（写真18）

1. 問題意識と方法
2. 廃PC政策
3. 廃PCマテリアル・フローの推計（図26）
4. 廃PC政策の検証
5. まとめ



写真18 陳報告

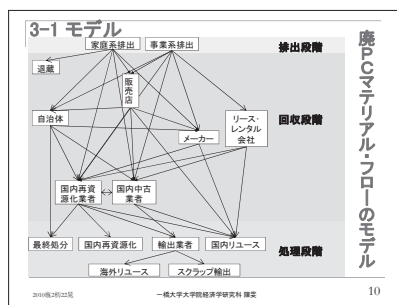


図26 陳スライド

[5] 平岩幸弘（一橋大学大学院経済学研究科研究補助員）「自動車リサイクル分野における日中協力の新展開」（写真19）

1. 日中環境協力
2. 自動車リサイクル分野における日中協力（3事例，図27）
3. 事業提携における主たる課題

39 <http://www.econ.hit-u.ac.jp/~koho/jpn/>



写真19 平岩報告



図27 平岩スライド

[6] 阿部新（山口大学教育学部⁴⁰准教授）「中古車の越境移動と廃棄・リサイクルの政策的課題」(写真20)

1. 自動車のリサイクル政策
2. 自動車の越境リサイクルに関する研究
3. どのような視点を持つべきか (図28)
4. 3カ国（ニュージーランド、ロシア、アラブ首長国連邦）の比較
5. まとめ
6. 政策論に向けての考え方



写真20 阿部報告

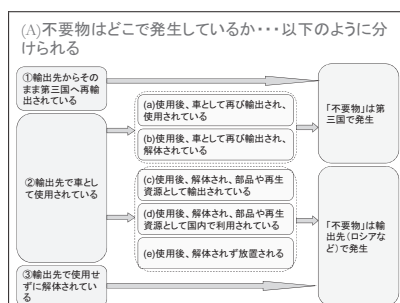


図28 阿部スライド

[7] 村上（鈴木）理映（国立環境研究所循環型社会・廃棄物研究センター⁴¹NIES ポスドクフェロー）「先進国の経験からみる E-WASTE 管理の課題：日本・韓国・台湾を事例として」（写真21）

1. はじめに
2. 途上国と先進国の E-waste 管理システムの違い（図29）
3. 先進国のリサイクル段階の制度設計
4. 先進国の解体段階の制度設計
5. まとめ



写真21 村上報告

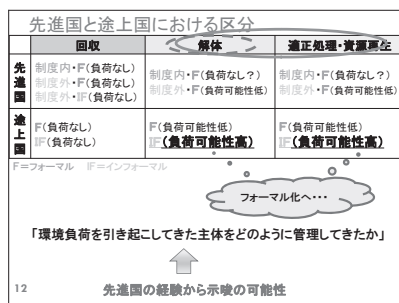


図29 村上スライド

第3テーマ：最終処分（16：45～17：45） 座長：松田晋太郎

[8] 澤部咲余（九州大学大学院工学府都市環境システム工学専攻）「一般廃棄物最終処分費用の増減要因に関する一考察」（写真22）

1. 研究の背景・目的
2. 各種データ
3. 最終処分場の累積埋立量の予測（図30）
4. 最終処分費用の推計将来予測
5. まとめ

41 <http://www-cycle.nies.go.jp/index.html>



写真22 澤部報告

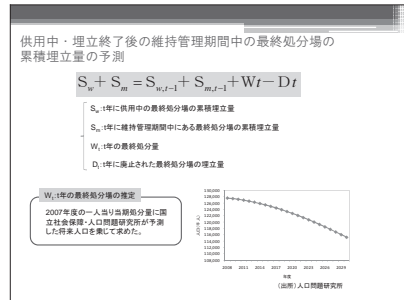


図30 澤部スライド

[9] 山下英俊（一橋大学大学院経済学研究科准教授）「産廃税は産廃最終処分量削減に寄与しているか：要因分解による検証」（写真23）

1. 産廃税の効果に関する既存研究
2. 産廃統計
3. 三重県内の産廃発生量・最終処分量
4. 最終処分量変化の要因分解（図31）
5. 建設業の活動水準の低下
6. 産廃税の効果はあったか
7. まとめ



写真23 山下報告

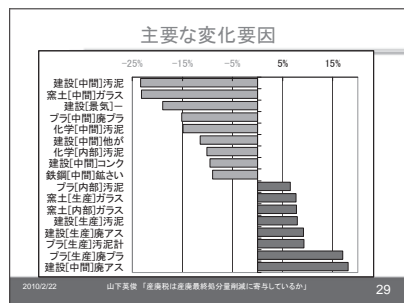


図31 山下スライド

3. 全体の質疑応答（写真24・写真25），閉会の挨拶：山下英俊



写真24 全体討論(1)



写真25 全体討論(2)

《資料編その2に続く》